

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (防災キャンプ)

静岡県防災キャンプ推進事業

静岡県教育委員会

【事業のポイント】

- 県内4市町でキャンプ実施
- 地域の特色を生かした地域プラットフォームを形成し、防災教育・体験プログラムや避難所運営の実施
- 自主防災活動推進大会、静岡県生涯学習推進フォーラムでの活動紹介



応急救護体験

1. 企画

(1) 事業実施の背景

静岡県は、東海地震等の大規模な地震による被害が予想されている。また、東日本大震災の教訓及び、南海トラフ巨大地震の想定を踏まえ、県民が安心して暮らせる社会を目指した取組の推進を重点施策として掲げている。

それらを踏まえ、災害の被害を軽減するためには、災害予防対策の一環として、防災知識の普及を図ることが必要である。本県では、“ふじのくに”危機管理計画(地域防災計画編)において、災害の種類、原因等についての科学的知識並びに災害予防措置、避難方法等を学習内容に組み入れ、学校教育、社会教育の全体を通じて防災教育の徹底を図るものとしている。

そこで学校・地域を避難所と想定した防災キャンプを通して、青少年の防災意識や実践力を高めると共に、避難所での青少年の役割を地域の大人とともに検証する機会とする。学校は、避難所生活における施設管理者としての関わり方や、青少年への防災教育についても、あわせて検討していく。そして、このキャンプで得られた成果を県内全ての市町、自主防災組織、学校等に、具体的なモデルとして情報提供し、より実効性の高い訓練や各種防災活動の充実・強化に役立てていくものとする。

キャンプ実施地域は、普及啓発の効果を高めるため、県内賀茂地区から河津町、南伊豆町、東部地区から富士市、西部地区から掛川市を選定した。4地区では、小・中学生向けの防災学習や防災に関する体験活動を計画したり、地域住民と共に避難所生活したりする中で、災害発生時に地域防災の担い手としての小中学生の役割等を確認するとともに、命の大切さや避難所での生活の仕方を学ぶ機会とする。

(2) ねらい

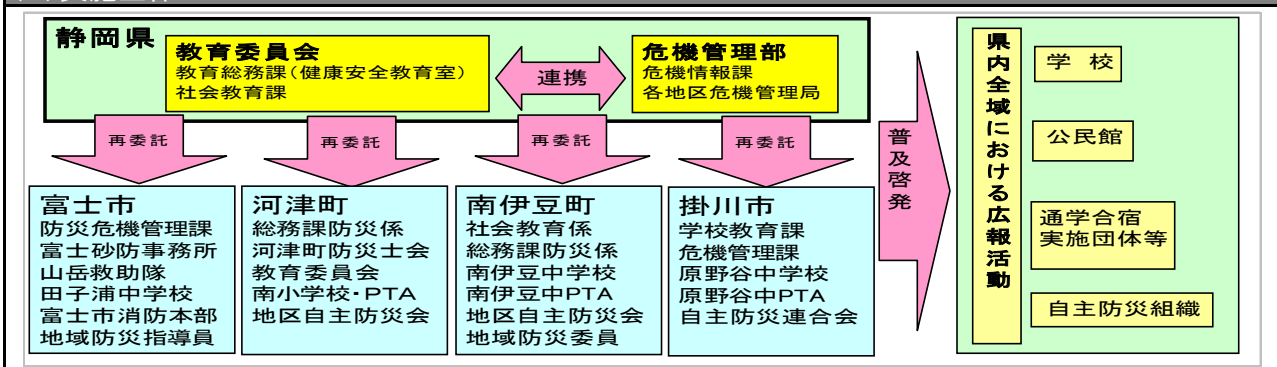
○各地域で自治会やPTA、自主防災組織等でプラットフォームを形成し、連携体制を構築し、地域の絆を深める。

○避難所での生活体験を通して、想定される災害や被災時の対応等を学ぶとともに、被災時の青少年の役割について検証する。

○課題の抽出・対応等を検討し、成果をまとめ、県内各地への普及を図る。

2. 実施概要

(1) 実施主体



(2)開催実績	
月 日	内 容
5月27日	第1回静岡県防災キャンプ担当者会
6月～ キャンプ実施前	防災キャンプ企画委員会〈各地区〉
	参加者説明会〈各地区〉
	防災キャンプ準備会〈各地区〉
8月1日～2日	南小学校区防災キャンプ【河津町】 実施場所:河津町立南小学校
8月18日～19日	南伊豆中学校区防災キャンプ【南伊豆町】 実施場所:南伊豆町立南中小学校
9月8日	原野谷中学校区防災キャンプ【掛川市】 実施場所:掛川市立原野谷中学校 ※台風接近のため2日目のプログラムを延期
9月20日～21日	田子浦中学校区防災キャンプ【富士市】 実施場所:富士市役所、田子浦荘
10月22日	第2回静岡県防災キャンプ担当者会
11月11日～13日	原野谷中学校区防災キャンプ【掛川市】 ※台風により延期したプログラムを実施
11月15日	静岡県自主防災活動推進大会【下田市】 ブース展示で防災キャンプの事例紹介
12月4日	静岡県生涯学習推進フォーラム【静岡市】 県全体の事業報告と河津町の事例発表
12月～1月	広報誌、リーフレット、ホームページ等で成果の広報



田子浦中学校区防災キャンプ
富士山の噴火による溶岩流の流れ方を実験



南小学校区防災キャンプ
地域の防災士からろ水機の使い方を学ぶ



南伊豆中学校区防災キャンプ
中学生が地域住民と共に避難所運営について



原野谷中学校区防災キャンプ
ダンボールを使った簡易トイレの作成体験



静岡県自主防災推進大会
防災キャンプの事例を県内の自主防災関係者に紹介



静岡県生涯学習推進フォーラム
社会教育・学校関係者と防災キャンプに関する意見交換の場を設定

(3) 推進月間の設定

推進月間を特別に設定しなかった。

(4) 事例の収集と発信

静岡県防災キャンプ担当者会を開催し、各地区の実施状況を報告し、意見交換を行った。
県では、各地区の実施事例をまとめた防災キャンプリフレットを作成したり、県社会教育課のホームページで防災キャンプの情報を公開したりして、県内各地域に広報した。また、静岡県自主防災推進大会において、県内自主防災組織の代表者に防災キャンプの紹介を行った。
実施市町では、広報誌や新聞等で実施状況を地域住民に広報した。

(5) 意見交換の場の設定

静岡県生涯学習推進フォーラムを開催し、県内の学校・地域関係団体の関係者に対して、防災キャンプの趣旨や河津町の事例報告を行った。その後の意見交換会において、地域プラットフォームの意義や役割について改めて説明した。

(6) 新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

現段階で新たな青少年体験活動の検討を進めていない。

3. 成果と課題

(1) 事業成果

【児童・生徒】

- 災害に対して、ふだんから準備することの大切さを知った。
- 避難所生活では、他の人のことも考えないといけないと体験を通して感じた
- 防災キャンプで学んだり、体験したりしたことを友達や家族に伝えたい。

【地域】

- 地域防災の担い手として、小中学生に災害時に地域の力になってもらいたい。
- 地域の中学生とコミュニケーションをとりながら共に避難所運営ができてよかった。

【行政】

- 防災キャンプを通して、参加者が防災について興味を持ち、真剣に考えるきっかけになった。
- 避難所運営を体験し、避難所における課題が明確になった。
- 各市町において、地域プラットフォームを立ち上げて地域団体・学校・行政が連携し、それぞれの実情に応じたキャンプを実施することができた。

(2) 事業運営上の課題

【活動内容について】

- 児童生徒と地域住民が避難所運営について共に考え、参加者同士が交流できるようなプログラム内容を検討する。

【運営面について】

- より多くの児童生徒や地域住民に参加してもらうための日程の設定が難しい。
- 防災キャンプで核となる地域プラットフォームを形成することができたが、今後、どのように他の団体等と連携を広げていくか。

(3) 事業成果の普及啓発の課題

実施市町での取組をまとめた防災キャンプリフレットを29,000部作成し、学校や公民館等の社会教育施設、自主防災組織等に配布した。また、ホームページで防災キャンプの情報を公開した。さらなる普及を図るためには、事業内容や成果を意見交換する場の設定を検討したい。

4. 団体プロフィール

静岡県教育委員会社会教育課

〒420-8601

静岡県静岡市葵区追手町9番6号

TEL : 054-221-3123

FAX : 054-221-3362

E-Mail : kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp

